

2 学年通信

新宮町立新宮東中学校
令和7年12月11日 第73号
文責:江頭 俊輔

〔授業参観へのご来校、ありがとうございました！〕

12月5日(金)の3時間めに授業参観がありました。当日はお忙しい中、たくさんのご来校ありがとうございました。修学旅行で学んだ最先端技術を、福祉学習で学んだ「福祉の視点」を土台として考え、自分の住んでいる新宮町を再観察して未来の新宮町を考えた『新宮町未来計画』を発表しました。中学校生活の様子を保護者の方にお見せする機会も残り少なくなってきました。(数えてみると、中学3年生の体育会学習のみです。)残り少ない参観日なので、2学期の総合的な学習の時間で学んだことを総まとめとして報告



する会を計画しました。発表の中にこれまでの学習の断片とをお見せすることができていれば幸いです。

総合的な学習の時間のまとめに全班的成果物を、エレベーター前や学年広場前の掲示版に掲示しています。自分と同じグループ以外の成果物も観察し、新宮町の一員として自覚を抱いて生活していきましょう。(左図は掲示物の一部です。)

〔未来の状態を作るのは！〕

今回は先端技術を通した新宮町の町づくりについて総合的な学習の時間で考えていきました。さて、みなさんは「未来の状態」を作るのは何だと思いますか？日々、変化していく社会ですが、未来の状態を作るものが何なのかを考えてみることは、社会の移り変わりの中で生きていく際にもとても有効です。今回も江頭が大好きな作家さんの伊坂幸太郎さんの本の中から、未来の状態を作るものについて考えましょう。

脳天気なだけと思っていたんだが、最近になって、私も分かってきた。たとえば、未来は素晴らしい、と子どもに教えるのと、未来は暗いと正直に教えるのとではどちらがいいのか。もしこれが、明日の天気の話であれば、無責任かもしれない。天気は、人が何を考えようと、何をしようと変わらないからだ。明日の天気の話は正確に伝えて、その準備をする必要がある。ただ、未来は違う。未来の状態を作るのは、人だ。もっと言えば、人の感情だろう。未来が明るくなるのか、暗くなるのかは、まだ今の時点では決まっていないんだ。様々な人間の感情が積み重なって、世の中の方向性は変わってくる。となれば

PK(講談社)/伊坂幸太郎 P.43

最後の「となれば」に続くことは何だと思いますか？私は「未来は明るい」と繰り返すことだと思っています。世の中には、たくさんのニュース・情報が溢れています。良いものよりも、悪いものの方が注目を集めてしまうのがニュースや情報です。そんな世の中を考え、「未来は暗い」と言い切ってしまうのはとても容易なことです。ただ、それでは「いけない/無責任じゃないか」と伝えてくれるのが、上記の言葉だと考えています。

未来を作るのは、『私たち』です。もちろん、みなさんを含めて。大切なのは、「未来は明るい」という気持ちを抱いたり、あたためたり、ときには伝えたり、説明したり、一緒に作っていこうと説いたりすることではないでしょうか。今回の学習を通して考えた新宮町の未来に、私は「未来は明るい」という気持ちを吹き込んで、未来に向かって一緒に歩いていけたら、嬉しいです。